

津森小児童 日奈久沖遭難から60年

命の尊さを後世に

八代市日奈久平成町で慰霊碑の除幕式



南九州西回り自動車道日奈久IC
近くに建てられた慰霊碑



悲惨な事故を二度と起こさないよう
参列者全員が誓いを新たにしました

昭和24年11月5日の午前10時14分ごろ、八代市日奈久沖で修学旅行中の津森小学校児童が乗っていた遊覧船が転覆し、児童22人、教師1人、校医1人の計24人が犠牲になった大惨事から60年が経ちました。

11月1日、八代市日奈久平成町で、二度とこのような事故を起こさないよう誓いを新たにし、この事故を風化させることがないようにと建てられた慰霊碑「津森小学校遭難の碑」の除幕式が行われました。

この碑は、地元の住民などが津森小学校遭難の碑建立委員会くさかべしこう（草部史考会）を設立し、募金などを呼びかけ同

町平成干拓に建立したものです。

式には、亡くなった富永八洲とみながやすお男校医の長男で遺族代表の富永橘郎とみながきつろうさん（上小谷）をはじめ、犠牲になった児童の遺族や同級生、地元住民、住永町長など約150人が出席。あいさつの中で富永さんは「当時から今日までの地元の方々のご厚意は言葉に言い表せません。これからも命の尊さ、大切さを後世に語り継ぐ大きな力になることとします」と述べました。

この後、参列者全員が焼香をしました。が、犠牲者や遺族の60年間の思いを反映しているかのような雨の中の除幕式になりました。

長年の統計調査協力お世話になりました

受賞された方々



坂野新一さん



米原良博さん



早野安全さん



水村一之さん

さかの しんいち 杉堂の坂野新一さんら4人に 農林水産大臣から感謝状

「統計の日」（毎年10月18日）を記念して、農林水産省が実施する農林水産統計調査に永年にわたって協力された方々に対して、農林水産大臣から感謝状が贈られました。

「統計の日」とは、今から130年前の明治3年9月24日、政府が「府県物産表」を作成した日を今の暦になおすと、10月18日に当たり、昭和48年からこの日を「統計の日」としたものです。

本町からは、坂野新一さん（杉堂）が15年、米原良博さん（南）が10年、早野安全さん（下小谷）と水村一之さん（田原）が5年、農業経営統計調査に協力されたことにより受賞されています。

なお、農業経営統計調査とは、農家の1年間の経営収支等を明らかにするための調査であり、その結果は、農林水産行政に広く活用されています。